

# わなぐら 和名倉 百年の森

和名倉山は豊かな自然を育む名峰、遙か昔より「ちちぶ」に水の恵みをくれた荒川の濫觴である。

ここへわたしたちは世代を越え、ぶなの木を植え続ける。荒川の清流にうろう多くの命のために。

2005  
9.30

10号

## 植林が授業に

百年の森づくりの会 会長  
内藤 勝久



て順調に滑り出した。

前号の「十周年に向けて」で「埼玉大エコサロン」を取り上げたが、メンバーに適材を得

て。学部応用化学科の本間俊司助教授（百年の森づくりの会副会長）、スタッフには岩波靖夫さん、吉田兼紀さん、石関明稔さん、田島克己さん、いずれも経験と感性豊かな正義感あふれる好漢。

うなれば受け入れ側の山村も賑やかになり、会の目的のひとつである地域の活性化が実現することになる。私はその授業の担当になりそうだが、魅力的なカリキュラムの作成、宿舍の確保と運営、指導員の発掘と教育など仕事は山ほどある。会員の皆様にもご指導・ご協力をいただき、農学部を持たない大学が、植林を授業に取り入れるという新たな試みを、是非成功させたいと思う。

サロンとなる会場は、六年前（一九九九年）の開学五〇周年の記念に、「百年の森づくりの会」の活動拠点として埼玉キャンパス内に建設された、三三mほどの木造の山小屋風建物である。資金は主に埼玉大ワンゲルOB、同経済学部同窓会、埼玉大学などによってまかなわれた。しかし活動拠点とは名ばかりで、ワンゲルの学生がたまに使う程度。「いつも閉まっていますね」と学長から冷やかされ、あれやこれや思案の末に「埼玉大エコサロン」の構想を得た。

曜日に昼食を食べながら、大学の先生方と意見交換をしようということになった。まず副学長の貝山道博理事を口説き、原田、津田両副学長のご賛同もいただき、後から大学院理工学研究科の豊岡了教授も加わり、十名程度の手弁当のミニ昼食会が始まった。

大学が動けば社会は変わる。「埼玉大百年の森づくりの会」が発足し、全校八〇〇名の教職員と学生がひとつになれば、百年の森づくりの活動の輪は県内にあまねく広がり、山村は復活し、水源の森林も蘇り、水と緑豊かな県土が造成される。

環境保全に関心のある教職員や学生と定期的に会合して、「埼玉大学百年の森づくりの会」を立ち上げるための地ならしをし、同時に「百年の森づくりの会」の事務局を設置したいと考え、さっそく人選にかかった。サロンマスターには工

なでも言える雰囲気になったので、さりげなく先生方に「植林を授業に加えていただけませんか」と、六年間も言い続けてきた私の持論をぶつけてみた。今まで歯牙にもかけられなかったテーマだ。ところが意外にも話ほとんどん拍子に進み、共通教育のひとつとして来年度からスタートの可能性がでてきた。

埼玉大学百年の森が完成したとき、埼玉大学は世界から最も注目される地方大学になっているに違いない。

地球温暖化防止が、今世紀最大の世界的テーマとなっている時だけに、学生たちも強い関心を示してくれるだろう。そ

そ

## 第三回中津川県有林の植林活動

# 山吹沢の森づくり

五月二一日、好天に恵まれて山吹沢の植林活動には、秩父市カブスカウトの小学生や秩父市立二中の生徒たち、環境保護活動に企業で取り組むローソンなど多くの方々が参加し、植付け作業や防護ネットはりを行ないました。今年はシカやウサギの食害から苗を守るために、生分解性のある防護ネット、ヘキサチューブ六〇セットとラクトロン一二〇セットを設置しました。はじめての試みですが、これからの森づくりに貴重な経験となりました。また、どんぐりから育てたミズナラの苗木をはじめ植えることができました。

### 植林樹種

ミズナラ 一二〇本  
 ミズナラ 一五本(どんぐりから育苗)  
 ブナ 十五本(冷凍保存処理)  
 ヒノキ 五〇本



### 目次

### CONTENTS

「植林を授業に」	巻頭
山吹沢の森づくり	2
念願の作業道完成	4
寄稿 植林作業道開設工事	4
第16回百年の森づくりワーク	5
埼玉県山岳連盟50周年記念 和名倉集中登山	6
下刈り作業	7
秩父産ブナ・イヌブナの採種と 育苗について	8
どんぐり拾いのご案内	10
和名倉の水源地遊行記 その3 大洞川市ノ沢	11
写真家 南 良和さんに聞く	12
『埼玉エコサロン』ってなに!!	13
『日本国際里山保全ワークホリデー in AICHI』に参加して	14
第17回百年の森づくりワーク	15

活着抜群の冷凍保存苗による植林  
 ブナの植林については、植林時期  
 や植林方法など難しい課題が多く、  
 植えつけてもなかなか活着しなかつ  
 たり、生長をいちじるしく阻害して  
 しまうことが多いのが現状でした。

ち十四本が開葉しました。植林に際  
 して日本大学生命科学部の鍛代先生  
 の指導をいただきましたが、今後の  
 植林技術として貴重な経験が得られ  
 ました。

春先の開葉まえ、根茎の活動が始ま  
 るまえに移植する必要があります  
 が、前年の秋に冷凍保存処理するこ  
 とにより、植え付け時のストレスか  
 ら苗を守ることができません。植林の  
 前日冷凍庫から出された苗は、冬枯  
 れの状態で植林されると開葉を始  
 め、新しい細根を広げて水を吸い上  
 げはじめます。冷凍保存処理した苗  
 の活着率はきわめて高く、山吹沢で  
 は植林一月後、植栽した十五本のう

シカの食害を防ぐネット

シカやウサギから苗を守るため  
 に、保護装置を設置しました。ラク  
 トロン並びにヘキサチューブの二種  
 類を設置し、作業性や耐久性、食害  
 防止効果、また苗木に及ぼす影響に  
 ついて検討することにしました。近  
 年「木を植えても山にならない」と  
 言われるほどシカの食害被害が深刻  
 になっています。高価なためすべて  
 の苗木に設置することはできません

が、自然植生が少しずつ再生してい  
 る山吹沢植林地で、将来主木となる  
 苗木を保護するために有効な手段と  
 言えます。

山吹沢県有林使用協定書

去る八月一日埼玉県と中津川県有  
 林山吹谷の森づくりに関する協定書  
 を締結いたしました。

有効期限は平成二二年三月三一日  
 までとなっていますが、延長は可能  
 です。百年の森づくりに専念できる  
 体制が整ったわけですが、一方埼玉  
 県に対して活動計画の作成や活動報  
 告といった義務を負うことになりま  
 す。また植栽木の管理は当会が、埼  
 玉県はその他の一般的な管理を行な

うといった役割分担も明確になりま  
 した。

県民の生命に直結する水源涵養林  
 の保全は、本来官の仕事ですが、税  
 収の不足、林業の不振などで問題が  
 先送りされているのが実状です。し  
 かし樹木はすぐに大きくなりません。  
 いくらかお金をかけても促成栽培  
 することはできません。百年後の子  
 孫のために今から樹木を植えておか  
 なければなりません。

我々は「水を育む山への恩返し」  
 をコンセプトにした植林ボランティア  
 ア団体として、水源涵養林の保全に  
 今まで以上に真剣に取り組みたいと  
 決意を新たにしています。



中学生の活躍がめざましかった植林作業。「やった！」



植えてからしっかり踏み固める小学生。「がんばれ」



冷凍保存苗15本中14本が開葉(ラクトロンで保護)



上:ヘキサチューブでミズナラを守る  
 右上:ヘキサチューブ内に開いた葉  
 右下:ウサギによる食害(2005年3月)

仁田小屋からの活動がぐんぐんとラクになちた

# 念願の作業道完成

百年の森づくりの会 野澤和雄

平成十五年の仁田小屋竣工時より、点に留意することになりました。の必要性がさげばれてきた作業道が、スギ・ヒノキの造林地（全体の八割三月の常務理事会で仁田小屋からイヌブナ平間のみ開設と決定されました。強を占める）内になるべく設定する。二分割を占める広葉樹林は、特に自然植生を壊さない。

を起点にして、南西斜面をジグザグに左肩上がりで縄を張りました。大きな露岩や株は上部を通すようにしました。一番注意を払ったのは、作業道がヒノキの造林地上縁（広葉樹林のツルまじりの外縁帯）に出たときに、縁を直角に横断し最短でイヌブナ平まで通して広葉樹林のマント層を傷めないようにしたことです。

五月十七日から二七日まで、山仕事の専門業者延べ四〇人、総延長約二〇〇メートルの作業道完成。

五月二八日（土）ブナの冷凍保存苗めする。

の植林作業に参加した会員からは、

五月一〇日（火）

「いつの間にかできたの」「りっぱな道に

仁田小屋つえの尾根

びっくりしました」とても登りやす

い」と賞賛をいただきました。



開設した新ルート約1200メートル



登りやすくなった作業道でブナの苗を担ぎ上げる

寄稿

## 植林作業道開設工事

(有)森林スマイル企画  
百瀬哲理

より多くの市民に和名倉百年の森の植林活動に参加していただくために、作業道開設工事を行いました。(有)森林スマイル企画でございませ。今回、開設工事の取りまとめましたので、少しお話をさせていただきます。

初めて下見に訪れた際、百年の森があまりに奥地であることに驚きました。近年の里山をやっているグループとは違うということで、下手な道は作れない・・・と思いましたが。工事は、五月の好天に恵まれ十日ほどで完了することができました。作業とはいえ、緑が一番美しい時期に和名倉山に入ることができ、誰よりも森を楽しませていただきました。まず最初の藪を切り払う作業や倒木の処理は、普段の森林整備作業の延長の技術が利用できまし

# 第16回百年の森づくりワーク

和名倉植林作業

2005年5月28日～29日

## 2日目 和名倉山の頂上調査



上：和名倉頂上付近  
中：頂上北西側風倒地帯  
下：仁田小屋尾根1800m付近作業小屋跡

## 1日目「一步の森」ブナ植林（冷凍保存苗を使用）



上：ラクトロン装着した苗（冷凍保存苗）  
右：「一步の森」でのブナの補植  
下：ラクトロンの装着と苗の計測

### 冷凍保存苗計測値 (2005.05.28 25本)

標識 No.	地際径 mm	樹高 cm
16	14	95
17	17	120
18	16	125
19	12	128
20	23	152
21	20	150
22	19	135
23	26	140
24	19	170
25	20	140

標識 No.	地際径 mm	樹高 cm
26	15	110
27	23	170
28	35	160
29	22	140
30	25	130
31	20	170
32	23	130
33	21	160
34	20	110
35	17	110

標識 No.	地際径 mm	樹高 cm
36	17	120
37	21	110
38	18	110
39	22	140
40	15	130

た。しかし、スズタケが生い茂った場所では、ネットワーク状に広がった根の処理にとても手間がかかってしまいました。そして、見通しが開けたところで、急傾斜地では土砂が流れないように、頑丈な土台を作りました。特に土台には、主に雪害による倒木を再利用しました。腐っていないほどほどの径のある倒木は、なかなか重さがあり固定するには息がきれました。仕上げに整地を行い作業の完了です。作業を進めるほど作業地が遠のき、本当に終わるのだらうかと思ってしまうましたが、イヌブナ平に着いたときは何よりもかえがたい感動がありました。今後、土砂がたまり皆様（四足も？）が歩き、踏みしめていただくことにより、さらに丈夫な道になってゆくでしょう。

作業道の開設ということで、植林プロジェクトのお手伝いをさせていただきました。ここから百年の森づくりの活動が益々発展してゆくことをご祈念申し上げます。

広がる「百年の森づくりの会」の活動

埼玉県山岳連盟五〇周年記念事業

6月25日  
—  
6月26日

# 和名倉山集中登山

百年の森づくりの会 高岡正彦

埼玉県山岳連盟(県岳連)は今年五〇 とが何より嬉しいことです。

周年を迎えました。その県岳連から五 行動報告

〇周年の記念事業として、「百年の森 六月二十五日(土)開会式を終え、雲

づくりの会」が推し進めている「水を 取林道終点に車を止め、仁田小屋へ。

はぐくむ山への恩返し」としての和名 着いて小屋を見るなり、歓声が上が

倉山への植林活動に参画したいとの申 ました。奥秩父のそれかなり奥深い

し出がありました。 和名倉山、そして車から降りて一時間

嬉しい限りです。植林活動に参加し もかかるところに、これほどまでの小

てくれる喜びも絶大ですが、それより 屋を想像していなかったのでしょうか。

登山の専門家たちが、我々が掲げた ここでまた身支度を整えて、作業道整

「水をはぐくむ山への恩返し」という 備・植林・和名倉山登山に出発。途

コンセプトに結集してくれるというこ 中、「二歩の森」セカンドフォレス

ト」を観察し、一八〇〇m「ミズナラ の広場(今回命名)にミズナラを植林

しました。

二六日再度、作業道を整備し(写真

「ミズナラ広場」今回植林した

ミズナラ)にシカよけネットを張りま

した。(写真)

作業道の整備も順調に進み、藪こぎ

せずに山頂までのルートが整備されま

した。これで道を間違えることなく、

また作業道としても十分に整備できま

した。ありがとうございました。

作業を終えた後、仁田小屋でたくさん  
のことを語り合いました。そして  
「百年の森づくりの会」の活動の広が  
りとともに、たくさん仲間とのつな  
がりできました。

そしてこの出会いが特に有意義に  
なったのは、仁田小屋の存在です。だ  
いぶ苦労して造った仁田小屋ですが、  
「百年の森づくりの会」の植林活動を  
盛り上げてくれるなくてはならない財  
産であることを強く実感しました。

まずは自分の苗を確保し、記念撮影。  
みんな夢中になって丁寧に植林しまし  
た。

自分の苗だけ?はシカに食われない  
ようにと、しっかりバリケードを築きま  
した。

藪を麻縄で結束して、作業道を確保しま  
した。

藪をエンジン付き草刈り機できれいに  
刈りました。

前日植えた県岳連のミズナラをシカよ  
けネットで囲みました。

昨日沢登りをして、和名倉山に泊まっ  
ていた班と合流して、ネット張りをしま  
した。



7月23日大血川大陽寺  
7月24日中津川山吹沢  
**下刈り作業**

七月二三・二四日大陽寺の植林樹種の生育調査

陽寺、山吹沢の二カ所で下刈り作業を実施しました。昨年に引き続き、鳩ヶ谷市八幡木中学校の生徒たち五人、卒業した高校生二人が参加しました。暑さや八手たちに気を配りながらの作業でしたが、森林の命あふれる世界にふれるよい機会となりました。宿泊は旧三峰分校校舎をお借りし、退出に先立ち校舎の清掃とグラウンドの整備を行いました。私たちの会の活動が、かつて子ども達の声がひびき山村の賑わいの一つでもあった分校が再び甦ることに繋げていきたいものです。



山吹沢下刈り作業を終えて



旧大滝村三峰分校のグラウンド整備



霧の中での下刈り作業(23日大陽寺)

大陽寺の参道に沿う北側斜面にそって植林された樹種と本数は、

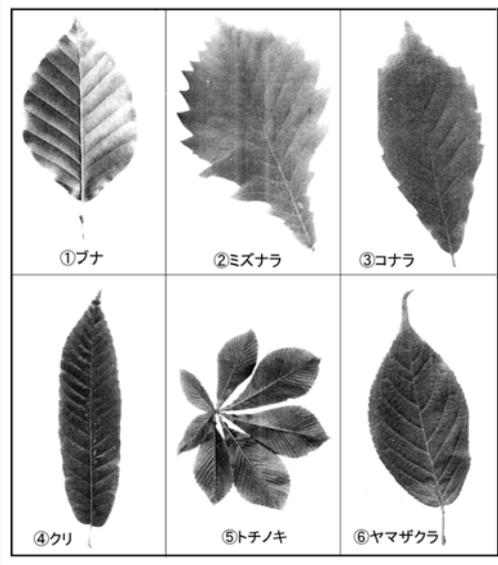
ブナ	二二本
ミズナラ	六〇本
コナラ	五〇本
クリ	六〇本
トチノキ	二〇本
ヤマザクラ	一〇〇本

これらの苗木の残存本数と樹高および生育状態を1良好、2不良、3幹折れ、4枯死の四段階に分けて判定しました。ブナ、クリの生育がきわめて良好であるのに対して、ヤマザクラは、四分の三が幹折れなど生育不良が目立ちました。コナラ、ミズナラも生育状態は不良で、トチノキの残存苗木は三本でした。集計結果は、次のとおり。

■大陽寺植林樹生育状況 (2005. 07. 23)

樹種	植林本数	生育本数	残存比 (%)	平均樹高 (cm)	最高樹高 (cm)	生育良好個体比 (%)
ブナ	22	22	100.0	255	400	95.5
ミズナラ	60	24	40.0	106	240	37.5
コナラ	50	18	36.0	130	280	66.7
クリ	60	40	66.7	210	350	90.0
トチノキ	20	3	15.0	67	80	0.0
ヤマザクラ	100	32	32.0	85	170	良好 9.4% 幹折れ 75.0%

2005年7月大血川大陽寺広葉樹植栽調査



葉の形から樹種を判定する調査用紙

# 秩父産ブナ・イヌブナの採種と育苗について

百年の森づくりの会 市川嘉一



今夏、群馬・栃木・新潟の山を歩いたところ、ブナは豊作のようで、多くの殻斗や堅果（ドングリ）が落ちていました。これは虫害を受けて落ちたものです。

ブナのドングリを食べる昆虫は二七種見つかっており、虫害の中心となるのは、ブナヒメシンクイが五〜八割を占め、メムシガ、ナナスジナミシヤクを加えると約九割になりました。虫害は七月までに終了し、被害されたドングリやドングリの入った殻斗は速やかに落下します。<sup>\*1</sup>  
ブナやイヌブナは五年〜七年の間隔



ブナの幼樹

で大豊作になることが知られていますが、そのような年には、ブナの巨木は数万粒ものドングリをつけるといわれています<sup>\*2</sup>。今年は秩父でもブナ・イヌブナの豊作が予想され、特にイヌブナの大豊作が予想されています。<sup>\*3</sup>

一般にブナやイヌブナは十月から成熟したドングリのこぼれ落ちが始まり、大豊作年は数百〜千/m<sup>2</sup>、豊作年は百/m<sup>2</sup>の果実の量となります。ブナのドングリは乾燥に弱いのですが、貯食性のネズミ類やカケスがこれを地面に埋め<sup>\*4</sup>、大豊作年は落下量の約二〇％が残存します<sup>\*5</sup>。このように貯食されたドングリは乾燥を免れ、さらに動物に忘れられたものは発芽のチャンスを得ることになります。ちなみに、北海道の苗畑での発芽率は三二％〜七二％、直播して発

芽後の稚樹の消長は北海道、本州とも約一〇％〜八〇％です。<sup>\*6</sup>

発達したブナ林では、豊作の翌年に多くの芽生えが出ますが、母樹などに目を遮られてほとんどの稚樹が成長できません。東京大学秩父演習林では二〇〇〇年にブナが豊作となり<sup>\*3</sup>、翌年多くの芽生えが見られたものの、そのほとんどが姿を消してしまいました。関東最大と言われる玉原のブナ林でも、切り開かれた山道にのみブナの稚樹が見られます。ブナ苗の大敵は光不足、菌類（菌根菌を除く）、乾燥なのです。<sup>\*5</sup>

ブナは冷温帯に分布する落葉広葉樹で、純林などを作る日本海側ブナ林とイヌブナやツガなどを伴う太平洋側ブナ林に分けられます。秩父のブナ林は太平洋側ブナ林です。ブナの葉はイヌブナより小さくて厚みがあ

り、側脈は七〜十一対です。イヌブナの葉はブナより大きくてやや薄く、側脈は十〜十四対です。堅果（ドングリ）は三角稜で似ています

がイヌブナの方が小さめで、殻斗についていた跡は丸型、ブナは三角形です。秩父では木の幹の色がブナは白いので白ブナ、イヌブナは黒っぽいので黒ブナと呼ぶこともありま

す。また、ブナはイヌブナより高い標高のところまで生育します。なお、ブナ科の植物も含め、根に菌根菌との菌根を作った植物は、養分とリンなどのやり取りを行なって共生し、丈夫に育つことが知られています。<sup>\*7</sup><sup>\*8</sup>

## 目的

今年のブナ・イヌブナ豊作のチャンスを逃さず、ドングリ拾いと苗畑確保、播種、来春の芽生えの移植に取り組み、今後の植林に使用するブナ・イヌブナの苗づくりの端緒とする。

## 方法

一、今秋ドングリを採集して苗畑に播種、来春には芽生えを掘り取り苗畑に移植する。

二、標高一四〇〇m以上への植林を行っている和名倉には主にブナを、標高一〇〇〇mほどへの植林を行っている中津川の山吹沢には主にイヌブナを植林したいので、ブナは東大演習林でドングリを採集し、芽生えを掘り取り、栃本や川又あたりの畑を借りて苗作りを行なう。イヌブナは中津川地区で採集できる県有林、民有林でドングリを採集し、芽生えを掘り取り、中津川あたりの畑を借りて苗作りを行なう。会はそのための許可の申請、お願いや委託を行う。

三、会員が毎日出かけてドングリを拾うことも播種もできないので、

栃本や川又と中津川で適任の方に、これらの作業を委託する。

四、九月中に、ブナとイヌブナの母樹をそれぞれの地区でいくつも選定する。

五、九月終わりが母樹の下に大きなビニールシートを敷き、その後毎日採集に行く。

六、拾い集めたドングリを水の入ったバケツに入れ、浮かんだものを除き、沈んだものを集める。(水選)

七、水選したドングリの数を記録し、ドングリを苗畑に深さ約3cm、間隔約10cmになるように播種し、落ち葉などをかけて乾燥を防ぐ。

八、来春の芽生えの掘り取りと移植は会が地元の方と共に行う。

九、来年六月初めに、ブナやイヌブナの根元土を採取し、水と混ぜて苗の根元にかける方法で菌根菌の接種を行う。

十、葉につく虫などを毎日取り除く。

十一、苗が密集するようなら、深く掘り取り、間隔をあけて移植しなおす。

十二、五年間で樹高約1メートルの苗を、ブナとイヌブナそれぞれ五〇〇〇本を育てることを目指す。

## 引用文献

\*1 鎌田直人:1996:遺伝

Vol.50No.4:64-68.ブナ林と昆虫

\*2 萩原信介監修:2001:ニユートン

植物の世界樹木編9.ブナの生活史

\*3 東京大学秩父演習林広報委員会:

2005:奥秩父のブナ林

\*4 斉藤新一郎:2000:木と動物の森づくり

\*5 原正利:1996:ブナ林の自然誌

\*6 北海道林業改良普及協会:2000:

広葉樹林育成マニュアル

\*7 金子茂・佐橋憲生編:1998:ブナ林

を育む菌類

\*8 岡部宏秋:1998:森づくりと菌根菌

秩父の森林によく見られる

## 木々の実(種)

アカシデ



カンバノキ科クマシデ属、枝一面に実(果穂)をつける。今年はアカシデも豊作である。

サワシバ



カンバノキ科クマシデ属、8月から9月にかけて実(果穂)をつけ、ビールのホップのようで、すぐ見分けられる。

ミズメ



桜の葉に似るが樹皮を傷つけるとサリチル酸の独特に匂うミズメ。種(果穂)は、風ではじけて拡散する。家具材として稀少になりつつある。

トチノキ



溪畔林を代表する木トチノキ。蒴果は大きく、溪流の流れに乗って下流に運ばれる。

# ドングリ拾いのご案内

秩父産の苗木作りは、これからの秩父の森づくりに大切な意味をもっています。戦後植えられたスギやヒノキの人工林が伐採収穫期に達していますが、その伐採跡地の森林再生の一つとして、より自然植生に近い森林が求められています。次世代にいのちをつなぐ木々の営みに学びながら、種を拾い、その小さないのちの苗を育てて山にかえす作業は、森づくりの大きなサイクルをつくることとなります。昨年ミズナラのドングリ拾いをした子どもの一人は、自分が蒔いた種が春芽をだしているのを見て、すぐにも山へ植えたいと思ったそうです。身近な森林へのかかわりは、森林への理解と愛情を培います。秋の山歩きをかねて、ドングリ拾いをしてみませんか。ご案内申し上げます。

## ブナ・イヌブナのドングリ拾いと秋の山歩き

秋の山歩きを楽しみながら、ブナやイヌブナのドングリ拾いと種播きをしませんか。秩父の山々の木から種を取り、秩父の山々に植林する苗を育てます。今年ブナやイヌブナは豊作。数年に一度のチャンスにドングリをたくさん拾って、ブナやイヌブナの苗を育ててみませんか。苗畑を旧大滝村中津川と長瀬の2カ所に準備しました。9月24日(土)から10月21日(金)にわたり日程を組みましたので、ご都合のよい日をえらんで、どうぞご参加ください。

### 「ブナ・イヌブナのドングリ拾い」日程と場所

- 9月24日(土) 東大秩父演習林<sup>\*1</sup>—中津川苗畑
- 10月2日(日) 東大秩父演習林
- 10月10日(月) 東大秩父演習林
- 10月16日(日) 国有林・県有林<sup>\*2</sup>—長瀬苗畑
- 10月21日(金) 国有林・県有林

- \*1 東京大学秩父演習林内は、小さな子どもにも安全です。
- \*2 ①武川岳 ②大持山・子持山 ③浦山・有間山  
④雁坂峠 ⑤和名倉山(仁田小屋尾根)などの候補地からドングリの落下状況を判断して当日決定します。  
(西武秩父駅から車と徒歩で現地へ向かいます)  
ドングリ採集後、午後から水選処理して種播き作業を行います。

- 集合場所：西武秩父駅  
集合時間：午前9:00

集合時間と集合場所は、毎回同じです。

#### ●持ち物

昼食・水筒・帽子・雨具・懐中電灯・ビニール袋

#### ●参加申込先

事務局までファクシミリ、eメールでお申込ください。

FAX 048-882-0245

e-mail: k.naito@naitohoken.co.jp

■好天に恵まれたドングリ拾い  
(2004年10月 入川林道)



■秩父のブナの大樹



# 和名倉の水源域遊行記

## その三 大洞川市ノ沢

百年の森づくりの会 東 克明

荒川水源域の和名倉山は、標高二〇三六メートル、東西南北八キロメートル及び大きな山体を有している。和名倉山の東縁を南北に流れる大洞川から西に向かって突き上げる谷のひとつ、市ノ沢に会員四名が、台風で増水した中で遊行を試みた。

いつもの山道に入り杉林を経て十七時十五分仁田小屋着、まもなく雨、今回は台風一過の晴天を期待したが雨模様、それでも行動中に強い雨には打たれなかったことが幸でした。

二八日、四時起床簡単に腹ごしらえ、五時

が、左岸を高巻くことにする。途中一休みをとして、八時三〇分右から岩穴沢が合流する出合、左の枝沢の五m程の滝も水量が多い。まもなく二〜四m前後の小滝が続くゴルジュ帯、小さな釜でも胸下まで浸かりながら、

ナシ尾根と仁田小屋尾根のつけ根を源頭とする市ノ沢は和名倉山東面に位置し、グ

明るくなつたところで小屋を出る。二五分程で荒沢ゲートの駐車地点、ここから雲取林道を車で戻り樽沢橋とサメ沢橋の間、大洞ダム

水線沿いに進む。左から船小屋沢が合流し、小さな滝を幾つか過ぎて、トイ楯状のナメ滝が続くゴルジュ、水勢が強く水に入るのは躊躇して、左岸を高巻く。沢身に降り(九時三〇分)まもなく、芝沢の出合、小滝さらに「ゴ

風十一号が関東地方を通過した後の二〇〇五年八月、仁田小屋をベースとして入谷。昨年の惣小屋谷と同じく、リーダーは高岡正彦会員。今回のメンバーは辻秀幸、石川恒男の両会員と私で、総勢四名。

ム的作业用モノレール近くに再度駐車、六時五分大洞川に向けて降り始める。大洞ダムの天端を渡り市ノ沢の左岸のトラパス気味の道を上流に進み堰堤のさらに上流で沢身に降り、雲取林道から約二〇分の地点で、身支度をやる。台風の後で水量もかなり多い。

口(石ころ帯)を過ぎ、四mのナメ、滝四mのスタリ状ナメ滝とそのまま進み、十一時三五分、二股付近で一休み。大洞ダムの天端が標高六六〇mなのでここでもまだ七〇〇m位のアルパイト。二股は右へ、その奥の

八月二十七日、旧荒川村のいつものスーパー

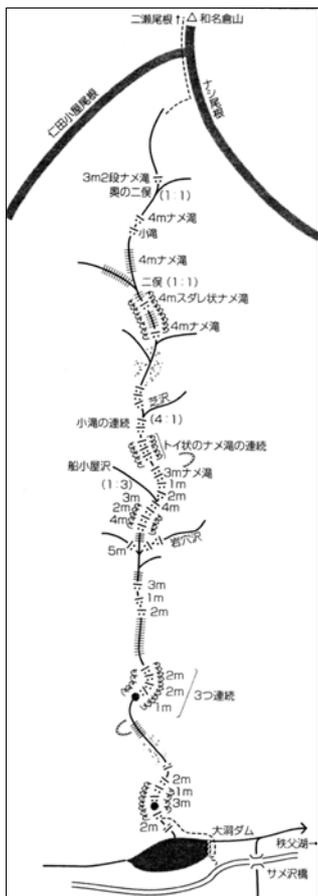
度をする。台風の後で水量もかなり多い。

二股は右へ、その奥の

「やおよし」で食料を買い込み、雲取林道を車で荒沢橋のゲートまで進む。十六時二五分林道を奥へ歩き出し、分収育林の看板の裏から

度をする。台風の後で水量もかなり多い。

二股は左に進み、左に水量が少ないと見落としそうな



「奥秩父・両神の谷100ルート」山と溪谷社版より



昼でも暗い谷の中、左から高岡、石川、東。



市ノ沢全景(右上ピークが和名倉山山頂)

曇天のこともあり、暗さを感じたが、滝はさほど難しくもなく、水量が少ない時期は殆ど登れるかもしれない。巻道もあり、最後のつめも藪がないので慣れるにはよい沢ともいえよう。惣小屋谷の両岸に比べると、斜面崩壊の程度も小さい。

枝沢を二本数えて、標高一七〇〇m付近で靴をウエディングシューズから履き替え、十三時、左の白樺混じりのタケカン八帯を登つていくと、藪こぎもなく仁田小屋尾根の踏み跡、左にトラパス気味に降りていくと、会った作業道に出る。すぐに標高一七五〇mのミズナラ広場。まとまった昼食をとり、十三時四五分仁田小屋尾根を降り始める。途中、セカンドフォレスト、一步の森で植えたブナを確認し、イヌブナ平からは今春設けた新道を降りて、十五時三〇分仁田小屋。

小屋についてまもなく雨粒が本格的に落ち始める。残り物でも割と豪勢に酒盛り、それでも疲れた体で、小屋のありがたみを感じながら、まもなく就寝。

二九日、片づけをして下山。すっきりとしたスカイラインを車の窓から眺めながら帰途につく。

和名倉の沢なので、全体に樹林がかぶさり曇天のこともあり、暗さを感じたが、滝はさほど難しくもなく、水量が少ない時期は殆ど登れるかもしれない。巻道もあり、最後のつめも藪がないので慣れるにはよい沢ともいえよう。惣小屋谷の両岸に比べると、斜面崩壊の程度も小さい。

第五回総会記念講演 演題「秩父の山村を見つめて」六月十二日 於・大宮ソニックスシティビル

## 写真家 南 良和さんに聞く



講師 南 良和氏

会場のスクリーンに映し出された一番目の作品は『荒川の源流』である。講演会には秩父の山や森を愛する人達が集まると聞いて、講師の南良和さんは荒川の風景から話を始められた。

荒川は奥秩父から東京湾まで一七三キロ。その源流を真ノ沢と呼ぶ。

南さんは今から三〇年前に当時の甲武信小屋の管理人・千島兼一さんの協力を得て、荒川の流れのモトを探し出した。命がけの撮影だっただけに、今でもその時のことをはっきりと覚えている。

「そっと湧きでた水は、石灰と化した倒木の上を流れ、一筋の滝となって、静かに真ノ沢へと落ちて行っただ」その時には、甲武信岳の南と西側を流れる笛吹川や千曲川の源流も見て回ったが、(掲載の写真を指さし)原生林の木洩れ日が入り、一番きれいに見えたとこ。

昨年の二月、私はいきつけの書店に出かけ、何気なく秩父と書かれた写真集を手にとった。開いてみて、目が釘付けになった。とりわけ二枚の写真は今でも心に焼き付いている。一点は『ねた子』。小さな女の子が赤ちゃんをいたわるように背負っている。日本人の原点とも言えるなつかしい一葉だ。もう一点は『二十一歳の嫁の手』。ひび割れて、ふしくれだった手・指は農村で働く嫁の厳しい現実を物語っている。その写

真集が南良和さんの作品であると知ったのは、総会の場であった。

南さんに直接お会いしたいと思っていたところ、九月に入って南写真館を訪れる機会に恵まれた。

南良和さんは一九三五年に野上村(現・長瀬町)に生まれた。幼い頃から小児喘息に悩まされ、家にこもりがちだった。家族は持病の回復には、もっと外を歩くようにと勧めていた。そんなおり、縁戚の眼医者さんから中古のカメラを払い下げてもらった。このカメラとの出会いが南さんの人生を決めることになった。やがて写真を本格的に学びたいとの思いがつのり、開校まもない東京総合写真専門学校へ進んだ。通学には野上駅から東中野まで片道4時間もかかった。こうしているうちに持病の喘息は不思議と治ってしまった。

村では仲間と青年団の活動に参加していった。当時深刻化していた『嫁と姑』の問題をとりあげ、秩父の人と生活に焦点をあわせた写真を撮り続けることになった。南さんは本格的に写真を撮るようになってから五十年になる。その間、『太陽賞』や『土門拳賞』など数々の賞を受賞された。

「今後はどのような作品づくりをめざされますか？」  
私のぶしつけな問いかけに

「これからも今まで通り、じっくり時間をかけて自分のものを創っていききたい」「一つのテーマに取り組む

と、一〇年はかかります。できれば同じ世代のひとたちを撮りつづけたいのです」

さらに

「映像の裏に潜む背景というか、歴史や生活の移り変わりを記録として残しておきたいのです」

カメラにはまるで素人の私の質問にも快く応じていただいた。最後に聞いてみた。

「南さんにとって秩父の魅力とはなにですか？」

「この地方は東京の裏庭的な面があります。けっして華やかではありませんが、精神的な豊かさというかが、心がやすまるんです」につこり笑いながら

「(会員の)皆さんが秩父に見える時には、二泊くらいかけて、ゆっくりきてください」

二〇〇五年九月五日 岩波靖夫



荒川の源流

百年の森テラスから

# 『埼玉大エコサロン』ってなに!!

百年の森づくりの会 本間俊司

テアをどんどんお寄せください。なおエコサロンの様子や今後の活動の詳細は随時ホームページ（<http://www.geocities.jp/wanagura/>）で紹介する予定です。

つ山小屋風建物。（正門右手の学生会館の前を通り直進すると正面が協協第一食堂になります）

埼玉大エコサロンは、埼玉大学内の山

最後に、エコサロンの活動の場である「百年の森テラス」で毎年開催される会員交流会についてお知らせします。交流会は、今年から埼玉大学学園祭「むつめ祭」の正式なプログラムに登録され、十一月六日（日）に開催することが決まりました。芋煮、味噌田楽などおいしい料理とミスナラの苗などのプレゼントも用意してお待ちしております。この機会にエコサロンの活動の場、百年の森テラスを是非ご覧ください。

小屋風建物「百年の森テラス」を利用して百年の森づくりの情報発信基地となるべく企画されました。エコサロンの名称がecology（環境学）+ salon（社交の場）であることから、「百年の森づくりの会」の会員、植林や環境問題に関心のあるすべての学生、教職員、ならびに市民が集う場にしたと

考えています。また、salonには絵の展示場という意味もあり、百年の森づくりの活動風景のみならず、森林や環境に関連する写真なども展示する予定です。

エコサロンの今後の活動ですが、毎月第一および第四火曜日の十時からサロンスタッフが百年の森テラスに常駐します。ランチミーティングも引き続き実施します。その他、植林や環境問題に関連する勉強会の開催、ブナを中心に日本の森林に関する写真展示、埼玉大学との共同研究の提案なども企画中です。会員の皆様にも気軽に参加いただけるsalonとすべく活動していきたいと思っておりますので、皆様からアイ

ミーティングと言うと少々堅苦しいイメージがありますが、実際にはランチを持ち寄り、テラス内にある大きな杉の一枚板のテーブルを囲み、世間話を

するといったイメージです。気軽な会話の中にも新しいアイデアがどんどん飛び出します。今後、サロンを中心とした面白い企画が期待できそうです。

エコサロンの今後の活動ですが、毎月第一および第四火曜日の十時からサロンスタッフが百年の森テラスに常駐します。ランチミーティングも引き続き実施します。その他、植林や環境問題に関連する勉強会の開催、ブナを中心に日本の森林に関する写真展示、埼玉大学との共同研究の提案なども企画中です。会員の皆様にも気軽に参加いただけるsalonとすべく活動していきたいと思っておりますので、皆様からアイ



埼玉大学キャンパス内の「百年の森テラス」…ちょっと気になる山小屋風の雰囲気があります。

# 「日本国際里山保全ワーキングホリデー in AICHI」に参加して

百年の森づくりの会 田島克己

「二〇〇五年日本国際里山保全ワーキングホリデー in AICHI」のセミナーとシンポジウムが、七月三〇・三十一日、企業の環境保全活動として里山整備に取り組む豊田市郊外のトヨタの森「トヨタフォレストスタヒルズ」を会場に行われました。このセミナーは「愛・地球博」の会場周辺の里山を舞台に行われた各種保全プログラムの総括として開催され、すでに数か所で間伐作業や森林整備作業が、海外からのボランティアをまじえて行なわれてきました。主催は、国土緑化推進機構、NPO森づくりフォーラム、イギリス環境保護団体BTCV、矢作川水系森林ボランティア協議会、日本山岳会東海支部猿投（さなげ）森づくりの会など、これまで森林環境の保全活動に取り組んできた経験を持ち、様々な問題が話し合われ、あらたな活動の方向が提案されました。

な試み

ことに豊田市を流れる二級河川矢作川流域の森林は、手入れが行き届かないために荒廃が進み、豊田市の防災上大きな問題となっており、山林所有者、森林関係業者、行政、研究機関（東京大学愛知演習林）、ボランティアが一体となって、流域森林の「森の健康診断」に取り組み、近くその報告がまとめられようとしています。矢作川は、水源を中央アルプスに発し、流路延長一七七キロメートル、流域面積一八三〇平方キロ、流域内人口六九万人。合併で広域化された豊田市にとって、矢作川流域の森林整備は大きな課題となっています。各種団体の共同プログラムは、環境保全活動におけるあらたな活動のかたち、「矢作川方式」として注目されています。ちなみに荒川の流路延長は一七三キロメートル、流域面積二九四〇平方キロ、流域内人口九三〇万人。この荒川の水源を

流域の環境保全には、多くの人々の協力的な取り組みが求められています。三十一日に開かれた豊田市での熱気あふれるシンポジウムに接して、私たちの会が荒川水系での広範な取り組みの一部でも担うことができればと思いました。

また、町長の横暴から伝統のある小学校校舎を住民の力で守った藤岡町のグループ「森羅21」など、厳しくも心やさしい人たちにお会いできたことも大きな成果でした。

「矢作川方式」ー環境保全のあらた

ふくめた保全、山間地域の活性化や

す。

ぶものがあります。個人がボラン

「矢作川方式」ー環境保全のあらたな活動の方向が提案されました。

「矢作川方式」として注目されています。ちなみに荒川の流路延長は一七三キロメートル、流域面積二九四〇平方キロ、流域内人口九三〇万人。この荒川の水源を

敬意とともに、東京であれば高尾山に比べられるような愛知の猿投山（さなげやま）という身近な自然環境にたいして、真剣に取り組まれている姿に、同じような共感を感じました。猿投山は焼き物で有名な瀬戸に近く、江戸時代の浮世絵に描かれている姿は禿山に近いものでした。その痛めつけられた歴史をもつ猿投山に、日本山岳会東海支部が、森林保全活動に取り組もうとしています。

活動のためのシステムと人づくり  
森林整備や環境保護活動にとって、活動の目的と方針、人々への働きかけ、組織の運営や資金、利害関係者や地域との連携や合意の形成、社会的な認知の獲得など数多くの課題があります。環境保全の活動が社会的な責務として日常的に国民のなかに定着していくためには、活動にたいする行届いた配慮、システムづくりやその活動を担う広範な指導層の育成が求められます。今回の「日本国際ワーキングホリデー in AICHI」の主催団体のひとつで、五〇年の歴史を持つイギリスの環境保護団体BTCV = British Trust for Conservation Volunteersの活動には多くの学ぶものがあります。個人がボラン

## 第17回百年の森づくりワーク 和名倉植林活動のご案内

期日 10月29日(土)～30日(日)

内容 ブナ秋植え試験植林(25本予定)

スケジュール

10月29日

9:00 秩父鉄道三峰口集合

11:00 雲取林道終点

12:00 仁田小屋

13:00 一步の森 地植え・植林

17:00 仁田小屋着 宿泊

10月30日

6:00 出発

7:00 地植え・植林/仁田小屋整備

12:00 作業終了 解散

持ち物

着替え・防寒着・寝袋・懐中電灯・雨具・帽子・昼食1食分

申込先

事務局までFAX・メールにてお願いいたします。

FAX : 048 - 882 - 0245

e-mail : k.naito@naitohoken.co.jp

## 百年の森交流会のご案内

日時 : 11月6日(日) 11:00～15:00

場所 : 埼玉大学キャンパス内 百年の森テラス

交通 : JR京浜東北線北浦和駅西口より埼玉大学行きバスで15分

JR埼京線、南与野駅北口より埼玉大学行きバスで10分

参加費無料です。芋煮会、中津芋のみそ田楽などお楽しみください。

秩父大産名産 さいたま銘酒

### 芋煮会・中津芋みそ田楽・「百年の森」

活動紹介「ビデオ上映」 ▲▲▲ 無料

パネル掲示「山と森を愛する」 (植林ボランティア百円基金  
にご協力ください)



おみやげ

- 木の葉のしおり
- 食べられる木の實
- ミスナラのポット苗  
(限定100個抽選)

水を育む山への恩返し

## 百年の森づくりの会

ところ : 百年の森テラス とき : 11月6日(日) 11:00～15:00

ティア活動に参加する場合、その参加者が所属する団体からまとまって参加させないようにし、できるだけ他の所属の人々との交流を促すようにして、ボランティア活動を通しての個人の社会的な絆を広げるようにしたり、ひとつの作業に対しては事前の話し合いを必ず行って、合意形成を図っていったり等々。このような活動の積み重ねが、社会的合意形成の基礎となり、行政、地域、ボランティアが一体となった活動が可能となるのではないのでしょうか。また、それを経済的に支える仕組みも可能となるのではないでしょう

か。イギリスでは、産業革命以降三〇〇年にわたって失われた森とそこに生息していた野生動植物を取り戻すために、田園・里山保全が国民運動として定着しており、それを民間レベルで担っているのがイギリスの環境保護団体BTCVです。

団塊世代の大量退職時代を迎えるとともに、成熟した社会になりつつある日本では、環境や地域への貢献を願いながらも、それが充分に実現できないという状況があります。小さな山や林に対しても、長期的な展望や自然植生への十分な認識、地域社会への理解が

求められますが、そのような環境保全にたずさわることのできる指導者を広範に育成し、それを長期に支えていくシステムづくりという点で、不十分な状況といえます。私たちの会の活動が、このような領域でも貢献できることを願うものです。

参考文献  
BTCV「森を育てる 森林ボランティアを対象にしたハンドブック」発行「信州フォレストワーク」

BTCV「ロカルアクション 環境保全ボランティアグループづくりのためのガイド」発行「日本財団 公益ボランティア支援グループ」



セミナーに先立ち「トヨタの森」観察会(愛知の典型的な里山アヤマキの林内で説明を受けるBTCVのメンバー)

## 平成17年度上期の活動実績

「荒川源流森づくり体験」山吹沢第3回植林作業実施  
5月21日(土)～22日(日)に大滝村中津川山吹沢県有林において第3回の植林を実施しました。秩父ボーイスカウトの子供たちおよび父兄の方々36名、秩父第二中学校のテニス部の生徒11名など、総勢107名が参加し、ブナほか210本を植栽しました。(詳細は2ページ参照)

### 第16回和名倉山百年の森づくりワーク実施

5月28日(土)～29日(日)に、26名の参加をいただき、第16回和名倉山百年の森づくりワークを実施しました。今回は今までの反省を基に、新たに作業道を整備し、「一歩の森」に改めてブナの苗木25本を植栽しました。(詳細は4ページ参照)

### 平成17年第5回通常総会・講演会・懇親会を開催

6月12日(日)午後2時から大宮ソニックシティ4階市民ホールにおいて、第5回通常総会・講演会・懇親会を開催しました。総会では、平成16年度事業報告、決算報告、平成17年度事業計画、事業予算について、原案通り了承をいただきました。また、記念講演では、地元秩父の写真家南良和さんに、「秩父の山村を見つめて」と題し、写真を交えてご講演いただきました。懇親会には南さんもご出席いただき、会員と和気藹々に懇談いただき、盛会裏のうちに終了しました。

### 大血川大陽寺・中津川山吹沢植林地草刈り実施

7月23日(土)～24日(日)に、大血川大陽寺、中津川山吹沢の植林地の草刈りを実施しました。猛暑のなか、総勢40名の方々に協力いただき無事終了することができました。今年も八幡木中学校の守谷先生はじめ生徒7名が参加くださいました。大変ありがとうございました。(詳細は7ページ参照)

## これからの活動予定

### ドングリ拾い

9月24日(土)  
10月2日(日)  
10月10日(月)  
10月16日(日)  
10月21日(金)

ドングリ拾い・播種作業を実施します。集合時間と場所は、いずれも午前9時、西武秩父駅。採種後、旧大滝村中津川、長瀬の苗畑で種まきをします。(詳細は10ページ参照)

### 第17回百年の森づくりワーク

10月29日(土)～30日(日)に、第17回和名倉山百年の森づくりワークを実施します。和名倉山にブナの秋植えを行います。(詳細は15ページ参照)

### 百年の森交流会

11月6日(日)11:00～15:00に、恒例の埼玉大学大学祭(むつめ祭)の時に、大学キャンパス内百年の森テラスにおいて、百年の森交流会を開催します。(詳細は15ページ参照)

### 和名倉山仁田小屋情報交流会

11月26日(土)～27日(日)に、和名倉山の今年の活動を終え、仁田小屋を閉じる時に現地にて情報交流会を実施します。

### 和名倉山仁田小屋開き

2006年3月25日(土)～26日(日)に、和名倉山偵察山行をかねて、仁田小屋の小屋開きを行い、平成18年のスタートを切ります。

## 会員を募集しています

荒川の源流、秩父の山々はいのち豊かな森林におおわれています。水を育むその山への恩返しに森林保全の活動を一緒にしてみませんか。

会員になると...  
・会報「和名倉百年の森」(年2回)をお送りします。  
・植林やイベントに参加していただけます。  
・森林への理解を深めていただけます。

年会費..... 個人会員 2,000円 / 法人会員 10,000円

### 現会員(会員番号 氏名 住所) 2005.3.16～2005.9.30入会者

748 田村 元一 東松山市 / 749 石黒 正和 中央区 / 750 高橋 昌義 中央区 / 751 麻生 大 千代田区 / 752 白川 樹 中央区 / 753 秋山 正勝 千代田区 / 754 飯島 脩 中央区 / 755 藤山 由雄 府中市 / 756 山門 美智子 府中市 / 757 深田 暁吉 港区 / 758 高坂 俊之 中央区 / 759 福田 忠 品川区 / 760 青鹿 安司郎 江戸川区 / 761 山田 祝子 横浜市 / 762 埼玉県山岳連盟 太田市 / 763 池田 幸浩 秩父市 / 764 鈴木 弘 三郷市 / 765 千葉 駿三郎 長瀬町 / 766 木村 秀行 西東京市 / 767 村田 実 秩父市 / 768 水元 義男 久喜市 / 769 間庭 茂 吹上町

/ 770 久田 晴實 さいたま市 / 771 埼玉県高校体育連盟登山専門部 上尾市 / 772 梅本 幸夫 鴻巣市 / 773 椋山 好久 鴻巣市 / 774 強矢 好光 小鹿野町 / 775 社会福祉法人利根の会保育園 羽生市 / 776 松田 広 さいたま市 / 777 須賀 周 Georgia U.S.A / 778 粟津 徳円 世田谷区 / 779 高崎 望 世田谷区 / 780 武田 庄吉 東久留米市 / 781 武田 一孝 北区 / 782 佐藤 正美 筑西市 / 783 林 崇弘 葛飾区 / 784 小野田 隆 大田区 / 785 齋藤 正昭 柏市 / 786 林 睦雄 杉並区 / 787 新井 是男 北本市

### 和名倉百年の森 第10号 2005年9月30日発行

発行 百年の森づくりの会 会長内藤勝久  
編集 百年の森づくりの会 広報委員会

### 百年の森づくりの会 事務局

〒336-0015 さいたま市南区太田窪 2 0 3 4 - 1  
TEL : 048 - 885 - 6697 / FAX : 048 - 882 - 0245  
e-mail : k.naito@naitohoken.co.jp  
<http://www.geocities.jp/wanagura/>